



## 高校カナダ短期留学体験報告その1

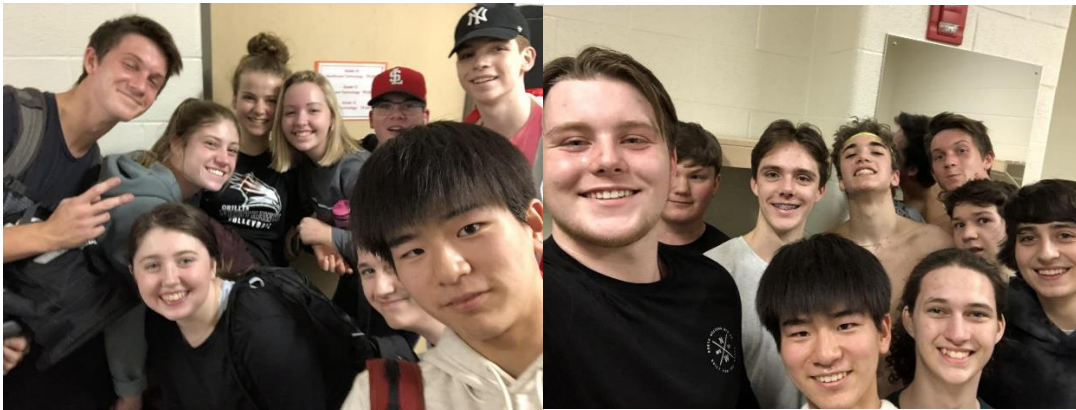
## NO.69

本校では高1～高2の生徒を対象に1月から3月までのカナダトロント近郊での短期留学を実施しています。今年は高1の生徒5名が1月5日から3月17日までホームステイをしながら、現地の高校へ通いました。帰国してちょうど1か月が経ち、現在は高校2年生の新たな生活をスタートさせています。5名から留学を終えての感想を寄せてもらいます。数回に分けて掲載しますので、今後留学することを考えている生徒諸君はぜひ参考にして下さい。

カナダ留学を終えて

高校2年1組 立本浩大

この原稿を書くにあたって、カナダでの生活で一番印象深かったことはなんだったのだろうか、話のネタになりそうなものは何かあるか、と振り返って考えてみた。そして、何も思いつかなかった。正直、自分でもびっくりした。だが、カナダでの生活が楽しくなかったかと言われれば、とても楽しかったし充実していたと即答できる。ということは、私にとって二ヶ月半のカナダでの滞在毎日毎日が同じくらい新鮮味に溢れていて、比べられないってことなのだろう。その毎日毎日を振り返っていくとこの紙が何枚あっても足りない。そこで、何が一番楽しかったとかじゃなくて、普段の生活、特に学校で印象的だったことを書いていきたいと思う。というのも、普段の生活が充実していたのは、ほぼ毎日通っていた学校がとても楽しかったということが圧倒的に大きいからだ。まず、授業が自分で選べるという点が日本と大きく異なっていた。自分が楽しいと思える科目、興味がある科目を自ら選択して毎日その授業だけ受ける。それが楽しすぎて学校がない日が逆につまらないと感じるほどに楽しかった。しかも、授業中にスマホをいじっても基本何も言われぬ。これだけ聞けば、私たち日本の生徒は大喜びだろう。しかし、裏を返せばそういう誘惑に満ち溢れた環境の中でやるべきことをやることで、責任感と精神的な強さを鍛えていくことができる。実際、カナダのクラスメートは皆真面目に受けていたし、授業に積極的に意見を述べて参加していた。当然だが、周りは私より自制心があって、精神的に成長している生徒ばかりだったし、普段の会話も所々に私にはとてもじゃないが話せないような意見や知識が混ざっていた。特に、登下校のスクールバスで友人たちと話していた時、日本について話している時に「日本にはどんなステレオタイプがある？」って唐突に聞かれた時は、相手が本当に同年代なのかと疑ってしまった。このような人たちと同じ時間を過ごせたのは本当に貴重な経験だったし、将来海外で対等に働いていきたいと夢見る私としてはとても刺激的だった。そして、その目標のためにはもっと人間的に成長していく必要があると実感した。責任感、積極性、普段の意識…言い出せばきりが無い。できればもう少し滞在したかったが、わずか二ヶ月半の滞在でも世界との差を痛感するほどだった。井の中の蛙大海を知らず。大海を少し知った今、その大海でも余裕で泳げるようになる必要があるが、そうなるための手段も時間もまだ何もわからない。でも、こう考えられるようになっただけで三学期の授業を全部飛ばした価値はあったと感じている。本当に、本当に行ってよかった。



カナダ留学を終えて

高校2年7組 鍋谷 聡一郎

カナダでの3か月間は、自分にとって新しい体験の連続でした。外国の家に住むこと。外国の学校に通うこと。多くの新しい体験をすることができました。それらの体験を通して、自分自身が感じたことを2つ紹介します。

まず僕は、人間の優しさに心から感動しました。ホストファミリーとカナダの学校で作った友人には優しくしてもらい、とても感謝しています。ホストファミリーは僕を家族の一員として受け入れてくれました。留学初日に初めてホストマザーと対面した際、”You’re my son from now on.”と言われたことは強く印象に残っています。ホストファミリーとナイアガラの滝を観光しに行ったり、アイスホッケーの試合を見に行ったりしたのは良い思い出です。

クラスに馴染むことができるか不安でしかなかった僕に”Hi!!”と声をかけてくれた友人達にも感謝しています。異国の学校に突然留学して右も左もわからない中、彼らが声をかけてくれたのはとても助かりましたし、それ以降も友達としてたくさん世話になりました。僕と同じラクロスをプレーしているGordon君や、ジョジョの奇妙な冒険やナルトなどの日本のアニメに興味があるJoel君などたくさんの友人ができました。彼らとは今も連絡をとっています。彼らは日本人留学生である僕のことを無視することもできたのにも関わらず、彼らは僕のことを無視せずに声をかけてくれました。その事実には心から感謝していますし、感動しました。

カナダでの3か月間で感じたことの2つ目は日本文化の素晴らしさです。特に和食の素晴らしさを再確認できました。また、カナダでの食事には、ポテトフライにグレイビーソースをかけたプーティンというカナダの国民的料理や、メープルシロップのかかったパンケーキなど美味しい食べ物もありましたが、どうしても日頃口にしている日本食い比べると見劣りしました。カナダでの食事があまり美味しくないという経験を通して、世界無形文化遺産である和食の美味しさを痛感しました。

最後に、カナダ留学の機会を作ってくださった先生方、応援してくれた家族、そして共にカナダ留学をした久々宮君、立本君、田中君、藤本君に感謝いたします。本当にありがとうございました。



ホストマザーとナイアガラの滝で



スキー場で友達を作りました

## グローバル・エンタープライズ・チャレンジ参加報告その1

昨年度ご紹介した GEC (Global Enterprise Challenge)に本校から高校生 3 チームが出場しました。3月24日に予選が実施され全国から68チームがエントリーしました。当日の朝8時に課題が出され、夜8時までに独自の英文ビジネスモデルプラン文書と3分間の英語ビデオプレゼンテーションの提出が求められます。上位3チームが5月の世界大会へと駒を進めます。残念ながら本校の3チームは世界大会進出とはなりませんでしたが、各チームアイディアを絞りながら奮闘していました。今年の課題は以下の通りです。

To develop an innovative business idea to contribute to the ending of IUU fishing and to manage fisheries sustainably as well as conserve marine biodiversity. You will present your business plan to a panel of venture funders who are interested in investing in social enterprises that aim to solve these problems using the latest available technology.

IUU fishing とは Illegal (違法)、Unreported (無報告)、Unregulated (無規制) で行なわれる漁業のことです。生態系に配慮しつつルールに則した漁業を両立させるにはどんなアイディアがあるのでしょうか？

高校3年7組 藤山 大和 (リーダー)、3年1組 北所 薫、3年2組 江崎 大毅  
まず、GEC とはどんなものかということに触れておきます。簡単に言うと当日に出されたお題に沿って、新たな事業を考えるというコンテストです。といってもやるのはビジネスの素人である高校生ですし、時間もたった12時間しかありません。求められることは、今までで行われたものを矛盾が出ないように組み合わせて、自分たちのビジネスモデルを作り上げること。そうとは言っても、誰に、どういうビジネスを展開するか、要するに何を売るのかを決め、市場傾向を分析し、さらには会社のお金の計算をして、総計で赤字にならないようにしなければなりません。ちなみに、事業のお題として出されるものは、環境、エネルギー、産業、災害対策、教育といった、物によ

てはビジネスに関わりにくいものも多くあり、さらに科学技術を利用したものでなければなりません。

3月10日の事前説明会の予行演習から我々は心をずたずたにされました。内容は比較的やりやすいものだったのですが、アイデアを詰めるのに時間を割きすぎて、制限時間内で完成に至ることができませんでした。そこから見直して、時間配分の作戦を立ったり、少しでも作業を減らせるように動画テンプレートの事前作成など、反省をして当日まで準備をしました。

私たちのチームでは動画、ビジネスプラン、そしてその橋渡しをする人と役割が分かれていました。けれどもいざ当日になってみると案の概要(全体像、客層、科学技術の利用方法など)の考案に時間がかかり、さらに伏兵であった収支計算にやられてしまいました。今思うと GEC でもっとも気にしなくてはならないのは、時間制限にあわせたビジネス案の規模の調節だと思います。前述の通り、GECでは事業書を書くにあたって、そのビジネスがちゃんと成り立っているかを確認するために収支表を作成、さらにお金の回し方について述べなくてははいけません。いくらよいビジネス案がかけても、英語という我々が普段使うものではないツールを使って、実現性を証明していなければいけません。逆にビジネスに整合性があっても平凡であれば他に負けてしまいます。

そしてもう一つ感じたことは、ビジネスプランのシンプルさの重要性です。これは一見簡単なように思えるのですが、論理性と利益率を考えると思い当たるものがなかなかないのです。例えば、物流の話なら、何か商売をするという路線で行くとすると、物をどこかから購入してそれを売って、さらにその管理代金を毎月取る…といったことよりも、革新的な物を限られた相手に対し、確実に儲けがでることを示した上でプランを展開する方がわかりやすく、説明もしやすいということです。整合性と利益全てを考えなくてはならないビジネスは一人の力で簡単に成し遂げられるものでないとわかった気がします。

あとは英語ですね。やはり英語は言語ツールだから、普段から日常的に使ってないと、いざ英語で文書を作ろうとしたら時間がかかってしまうと実感しました。日々鍛錬あるのみ、慣れるしかないですね…



## 新年度もよろしくお願します

前年度お知らせしたようにグローバル教育部のオフィスが4月より2号館2階に移転しております。留学等で相談がある場合には遠慮なくおいで下さい。今年度も英語科岡崎（研究日火曜）、英語科山口（研究日木曜）が常駐します。会議・講習等で席を外していることもありますのでご了承下さい。